



一問一答方式で質問するささい茂智 9月19日 県議会本会議場

ベトナムとの経済交流 加速を!!

9月定例県議会一般質問 学校図書館の機能充実など 3項目を質問

9月8日に始まった9月定例県議会が10月3日に閉会し、防犯カメラ設置に対する補助枠を倍増する経費などを盛り込んだ17億8600万円の2014年度一般会計補正予算案など23議案を可決しました。

私は9月19日の一般質問に登壇し、岡山県とベトナムとの交流の強化や学校図書館の機能充実、高校生への就学支援強化の3項目で質問。ベトナムからの技能実習生受け入れへの支援強化や知事自らのベトナム訪問による交流の加速を求めました。

伊原木隆太知事は「新たなマーケットとしての魅力が高まっている。県内企業のニーズを踏まえた経済交流を進めるとともに、私自身も足を運び交流を加速する必要がある」と経済交流促進のため、ベトナムを訪問する考えを示しました。

主な質問と答弁

1.ベトナムとの交流について

(1) 経済交流の取組等

平成18年にベトナムとの間に経済交流に関する覚書を締結しているが、8年間の取組と成果はどうか。

→ 経済団体との連携のもと、毎年訪問団が派遣され、投資環境の調査や商談会の開催などを行うほか、平成20年にはビジネスサポートデスクを設置し、県内企業の現地での事業展開を支援している。平成17年末に4社だった進出企業は、25年末には15社となり、本県からの輸出額も約9.4倍となるなど成果も上がっている。(知事)

知事のベトナムに対する認識と昨年6月に駐日ベトナム大使が表敬訪問された際の印象はどうだったか。

→ ベトナムは現在、県内企業が最も有望と思う又は関心を寄せる国となっており、引き続き高い経済成長が続くと見込まれている。また、ベトナム人は昨年お会いしたフン大使も大変立派な方でしたが、比較的日本人に近い気質を持ち、大変フレ

質問項目

- 1.ベトナムとの交流について
- 2.学校図書館の機能充実について
- 3.高校生に対する修学支援について

ンドリーと感じており、経済交流先として有望である。(知事)

(2) 技能実習生の受け入れ

県内の中小・零細企業の人材確保は喫緊の課題となっている。人材確保のための外国人技能実習生の受け入れ支援として、ベトナムとの間に協定を結ぶなどの取組はできないか。

→ 昨年、県中小企業団体中央会等がベトナム大使館と協定を締結し、一定の成果が出ているところであり、協定については考えていない。(知事)

(3) 南ベトナム農業研究所と農林水産総合センターの交流等

南ベトナム農業研究所を訪問し意見交換等を行った際、コメの品種改良などで日本の技術を求めている

る姿勢がうかがえた。同研究所と農林水産総合センターの人的交流や技術提携ができないか。

→ 日本とベトナムでは気象条件が大きく異なる中で、相手方にどのようなニーズがあるのか、どのような人的交流や技術提携が可能なのか、さらには今後の貿易拡大に伴う本県農業に与える影響等も考慮しながら、幅広い視点から研究したい。

(知事)

(4) トップセールスによる交流の加速

経済発展を続けているベトナムは、日本との関係も良好で、人口減少が進む日本における新たなマーケットとしての魅力は十分だが、平成18年に石井前知事が訪問して以降、知事の訪問は実施されていない。早い時期に知事自らがベトナムを訪問し、トップセールスによるさらなる経済・友好交流を加速させるべきではないか。

→ ベトナムは新たなマーケットとしての魅力も高まってきており、引き続き県内企業のニーズを踏まえた経済交流を進めるとともに、今後、私自身も足を運び交流を加速する必要があると考えている。友好交流についても、このような経済交流等が盛んとなり、お互いの機運が高まった段階で検討したい。(知事)

2. 学校図書館の機能充実について

(1) 司書教諭の配置状況等

第3次岡山県子ども読書活動推進計画では、12学級以上の学校への司書教諭の配置や国の図書標準の達成、学校司書の配置などを促すとあるが、市町村間の格差が課題となっている。公立小中高校の司書教諭、学校司書の配置状況、計画の目標達成に向けた状況と今後の取組方針を

伺いたい。

→ 司書教諭は学校図書館法に基づき、12学級以上のすべての公立小中高校に配置し、12学級未満は平成24年度調査では約26%で、学校司書の配置は全校の約85%となっている。市町村教委に働きかけた結果、12学級未満の学校に配置した司書教諭は、26年度約29%に増えているが、学校司書は現在調査中である。

未配置の町村の解消も含め配置の拡充にあたって、司書教諭は資格を持った人材の確保が課題で、教員養成系の大学に資格取得を働きかけるとともに、学校司書は学校間の兼務等の工夫を行っている事例を紹介しながら、市町村に強く働きかけたい。(教育長)

(2) 図書標準達成の現状等

公立小中学校の図書標準達成の現状、計画の目標達成に向けた状況と今後の取組方針はどうか。

→ 図書標準の達成状況は、平成23年度末で小学校75.5%、中学校66.7%で増加傾向にあり、全国平均を上回っている。最新の達成状況は現在調査中で、図書標準の100%達成を目指し、市町村教委に地方財政措置の活用などを強く働きかけている。学校における読書環境の整備のため、学校間での図書の相互利用の働きかけや、県立図書館による貸出などを通じて、学校での読書活動を支援していきたい。(教育長)

(2) 岡山県図書館等整備基金の活用

学校図書館の充実のため、岡山県図書館等整備基金を活用できないか。

→ この基金は県立図書館の建設や図書資料の整備を図るため設置されたもので、引き続き計画的に資料の整備を進めていく。学校図書館の充実は、学校の希望で県立図書館の蔵書を貸し出しており、今後とも活用方法を学校へ周知したい。(教育長)

3. 高校生に対する修学支援について

(1) 奨学のための給付金事業

今年度から低所得世帯の生徒に対して奨学のための給付金が創設されたが、県立学校での支給手続きをどう進めているか。また、給付金事業の意義をどう考えているか。

→ 奨学のための給付金事業は教科書費や教材費等を対象として、7月1日に高校に在籍する生徒のいる低所得世帯に支給する制度で、現在各県立高校において申請書類の審査を行っており、10月をめどに受給者を決定し、その後給付金の支給を行う予定である。また、子どもの貧困率が年々上昇し、先進国の中でも厳しい状況の中で、すべての意志ある生徒が安心して教育を受けられる、教育の機会均等を確保する観点からも意義あるものと考えている。(教育長)

(2) 奨学金の受給要件の緩和等

高校生に対して岡山県育英会の奨学金があるが、保証人が見つからないために奨学金の受給を断念しなければならぬという声を聞いた。こうしたことをなくすため要件の緩和・変更ができないか。保証人による人的保証だけでなく、保証機関による保証が利用できるよう要件を改善してはどうか。

→ 岡山県育英会では、貸与した奨学金が確実に返還されるよう保証人の選定を受給の要件にしている。奨学金の保証に対応可能な機関については把握していないが、利用した場合、保証人が不要で手続きが容易になるとともに、債権回収が確実にできる一方、奨学生に保証料の負担が生じる等の課題もあり、今後、保証機関の状況や奨学生の負担等を研究したい。(教育長)